

## タンチャノック・ナンタティクーン (タイ)



初めまして。私はタイから来ましたタンチャノック・ナンタティクーンと申します（ニックネームはアンプです）。2015年からタイの内務省減災局（DDPM）で計画・政策アナリストとして働いています。タイでは、カセサート大学、チュラロンコン大学、タイ商工会議所大学でそれぞれ発達心理学、法学、日本語の学士号を取得しました。また、シラパコーン大学において、公共・民間経営の修士号を取得しました。

このような私の経歴は、災害分野とはあまり関係ありませんが、災害や気候変動のリスクや影響が現実のものとなり、私たちの生活にますます身近なものになってきていることを実感しています。皆さんご存知の通り、2004年12月に発生したインド洋大津波において、タイは今世紀になって初めて大規模な津波を経験しました。この災害において、タイでは死者5,400人以上、負傷者8,000人以上、行方不明者3,000人以上の被害が出ました。タイは非常に平和な土地にあり、大規模な自然災害などなかったように思えますが、インド洋大津波によって、災害はどこでも起こりうるということが証明されました。また、2014年にはタイ北部において、マグニチュード6.2という観測史上最強の地震が発生しました。この災害においては、道路や建物に深刻な損害が生じ、たくさんの古い家屋が倒壊しました。実は、タイでこのような地震が起こるとはかなり衝撃的なことでした。タイ国内には16の活断層があり、いつか陸域で地震が起きるかもしれないという恐れがあります。私の家も、2011年の大洪水で1カ月近く浸水し、多くの大切なものを失いました。私たちは近年の地球温暖化の問題について知っており、無計画な都市化や森林伐採などがリスクを増大させ、注意が必要であることを知っています。私たちはいまだに目を閉じ、経済的なことを第一に考えているのは不都合な真実です。私は在学中に、私たちの生活と自然を両立させ、レジリエンスを生み出す答えのひとつである「充足経済（セタギット・ポーピアン）」の考え方を学びました。「より良く」、「より安く」、「より早く」、「より安全に」というコンセプトは、ビルド・バック・ベター（Build Back Better）に似ていてとても好きです。

DDPMに入局してからは、国際協力課に勤務しています。ここでの仕事は、防災に関連する様々なプロジェクトの支援や、国連、ASEAN、タイや他の加盟国の大使館を含む国際機関との協力、国際会議やワークショップへの参加などです。また、私は学ぶことと自己啓発が大好きです。多くの国の知識や経験から学ぶことは、本当に素晴らしいことだと感じています。日本は間違いなく、災害とともに生きることのお手本です。人々の規律、安全意識、構造的・非構造的対策における防災への取り組み、そしてレジリエントな復興が、日本におけるレジリエンス構築の成功の鍵であると考えています。防災や災害への備えについて、人々に啓蒙し続けることはとても大切で、災害や気候変動に対するレジリエンスを達成するための行動は、私たちの考え方に関わっていると感じます。

今回の客員研究員プログラムは、防災について学ぶために多くの組織やコミュニティを訪問するだけでなく、日本の文化や生活様式を知ることができていて、私に貴重な経験をもたらしてくれました。さらに、タウンウォッチングや、防災イベントである「イザ!カエルキャラバン!」にも参加することができとても印象的でした。このような機会を与えてくださった日本政府とタイ政府、ADRCのスタッフの皆さまに心から感謝いたします。

本当にありがとうございます。